令和２年度第２回 今治市廃棄物減量等推進審議会 会議録

1．日時：令和2年10月2日（金）午後1時30分～午後2時45分

2．会場：バリクリーン1階多目的室

3．内容
　1）開会
　2）出席委員の確認
　3）議事
　　（１）アンケート調査結果について
　　（２）将来ごみ排出量について
　　（３）ごみ減量化等目標値について
　　（４）質疑
　4）その他
　5）閉会

4．出席者
＜委　員＞
村上　伸幸　委員　石見　和子　委員　水口　和幸　委員
井手　克彦　委員　石﨑美恵子　委員　喜田ヒサ子　委員
長谷部眞一　委員　森　敏夫　委員　村上　惠子　委員
村上　正子　委員　上野　鮎美　委員

＜事務局＞
越智市民環境部長
（リサイクル推進課）加藤課長、越智課長補佐、長谷部課長補佐
村上課長補佐、村上係長
（環境政策課）渡部課長補佐、宮脇係長
（委託業者）株式会社建設技術研究所　林氏、池田氏

会議の記録（概要）

1　開会

2　出席委員の確認

・（事務局）委員12名中11名の出席により、本審議会が成立していることを確認した。

3　議事

⑴　アンケート調査結果について

○資料1-1　市民アンケート調査結果

・（事務局）資料1-1に基づき、事務局より内容説明

○資料1-2　事業者アンケート調査結果

・（事務局）資料1-2に基づき、事務局より内容説明

⑵　将来ごみ排出量について

○資料2-1　将来ごみ排出量について

・（事務局）資料2-1に基づき、事務局より内容説明

⑶　ごみ減量化等目標値について

○資料2-2　ごみ減量化等目標値について

・（事務局）資料2-2に基づき、事務局より内容説明

⑷　質疑

・（Ａ委員）
資料 2-1 で大きな施策の方向性を記載しているが具体的な施策はどのように考えているのか。
→（事務局）
今回の審議会でごみ減量等目標値を設定した後、次回審議会において具体的な施策を議論したい。
・（Ｂ委員）
特に高齢者は自身で分別するのが難しいと認識している。行政が主導して指導ができるとよい。指導の際は自治会単位で行うなどできるだけ指導が行き届くよう工夫されたい。
・（Ｃ委員）
総ごみ量の目標は人口減少によるものか。
→（事務局）
人口減少で減る分もあるが、それに加えて施策の実施によりさらなる減量を見込んでいる。
・（Ｄ委員）
若年層の分別意識も低いように感じる。分別項目を変更すると市民の負担が増えるため、施策は慎重に検討されたい。
・（Ｅ委員）
若年層のアンケート回答数が少なく、相対的に悪い結果に見える。
・（Ｆ委員）
家庭系ごみの削減目標は達成の見込みがあると感じられるがリサイクル率は設定している目標が低く感じられる。
→（事務局）
近年店頭回収を利用している市民が多い。店頭回収量は事業者が独自に実施している事業であるため、市のリサイクル量として反映できていない。また、重量の重い紙類の資源化量も減少していることから、現状を反映した設定とした。バリクリーン稼働後の処理方法が変更されたことにより、可燃ごみからエネルギー回収を行っている。このことから、これまでよりごみ中の有効利用できている割合は増えている。店頭回収の利用は悪いことではなく、市民の行動としては優れている。今後は可燃ごみや不燃ごみ中の資源物をしっかりと分別してもらえるよう、分別率の向上という観点でも取組を実施していきたい。

・（Ｇ委員）
リサイクル後の使用用途など、ごみがどのように生まれ変わっているかを周知することで意識変革につながると考える。また、今後の施策の検討では他の自治体も参考にしてみるとよい。
・（Ｈ委員）
可燃ごみ中でまだリサイクル可能なものはどのようなものか。
→（事務局）
紙類が多い。また、生ごみについては減量可能性があると考えている。
・（Ｃ委員）
生ごみの水切りを推進するために、水切りキットを配布する施策なども有効であると考える。
→（事務局）
実施については今後検討していきたい。
・（Ｇ委員）
海洋プラスチック問題として、不織布がマイクロプラスチックとして検出されている。生ごみの水切りネットなど不織布が使われていると、そのような懸念もある。不織布に代わるような材質のものがあればよい。
・（Ｅ委員）
特に高齢者は店頭回収を利用しやすい。店頭回収分をリサイクル量として反映できれば市全体のリサイクル率も向上するのではないか。
→（事務局）
現状は反映できておらず、課題として認識している。
・（Ｆ委員）
可燃ごみの原単位が近年増加している要因は何か。
→（事務局）
軟質プラスチックを可燃ごみとして回収したことに加え、不燃ごみ中の硬質プラスチックも可燃ごみとして回収できるようになったことが要因と考えている。

・（Ｆ委員）
熱回収に関する現状の評価はいかがか。
→（事務局）
可燃ごみから可能な限りエネルギー回収を行っている。これまでより、全体のごみ量に対する有効利用の割合は増加しており、このような現状を踏まえて設定したリサイクル率の目標を達成できるよう、取組を継続したいと考えている。
・（Ｉ委員）
産業廃棄物を事業系ごみとして排出している事業者もいるとのアンケート結果であった。これまでは事業系ごみ対策としてどのような施策を実施してきたか。
→（事務局）
過去に産業廃棄物も受け入れていたという経緯もあり、その名残もある。許可業者に対して展開検査により産業廃棄物が搬入されていないかを確認している。
・（Ｊ委員）
水切りが重要な施策であると認識している。
・（Ｋ委員）
マイバッグを持参しているが、様々な用途で必要なため、結局ポリ袋を購入している。マイバッグ運動に効果があるのか疑問である。
→（事務局）
レジ袋を断ることでごみ量が減ることが期待できる。また、ポイ捨て対策にもなり、海洋ごみ問題の解決にもつながる。
・（Ｋ委員）
審議会の委員として活動していく中でリサイクルに関する意識が大きく変わった。目標達成のためには市民一人ひとりの意識が大切である。今後広報活動等を積極的に実施してほしい。
・（会長）
議事事項であるごみ減量化等目標値は事務局提案の数値でよいか。
→全委員同意

・（会長）
次回審議会では、ごみ減量化等目標値を踏まえた具体の施策について議論したい。

4　その他

・（事務局）
次回審議会を11月19日（木）の13時30分からの開催を予定している。

5　閉会